

# 赤羽・田端統括分会 結成！

10月17日、赤羽・田端統括分会結成総会が開催され、赤羽駅・十条駅・東十条駅・王子駅・田端駅・尾久駅・日暮里駅の仲間が一つの分会に結集しました。総会では、各職場で発生している問題が出されました。

11月1日には「赤羽営業統括センター」が、来年6月には「田端統括センター」が発足し、田端運転所の仲間も合流します。

安全で安心して働ける職場を全組合員でつくり出していくことを参加者全員で確認しました。

#### 結成宣言(案)

私たちは、東京地本赤羽事務所において『JR東日本輸送サービス労働組合赤羽・田端統括分会』を結成し、向こう一年間の運動方針と執行体制を満場一致で確認した。

鉄道開業150年、JR発足35年、企業風土の劣化が「現場・安全・顧客軽視」として現れ、鉄道の根幹を揺るがす事態が発生している。そこにあるのは「稼ぐ」を最重要課題とした利益至上主義のもと、企業価値低下「差別」や「パワハラ」の不法行為だ。突如、週刊文春で報じられた「組織問題」は、企業価値の低下と黒字化に向けて努力してきた現場への不信感を増大させた。しかし、社員への説明責任を果たすことなく、報酬カットで節引きを図る行為は、現在のJR東日本の経営の質を物語っている。

経営の意志に基づいて行われた「脱退強要・組合差別」を“あったことなかったことにはできない”と決意し、4名の仲間が立ち上がった「脱退パワハラ訴訟」は大詰めを迎えている。私たちは4名の仲間と共に、不当労働行為を根絶させることは、すべての仲間の利益を守ることへとつながる。企業風土と経営姿勢を直し、健全なJR東日本・グループ会社を取り戻すために、すべての仲間と連帯してたたかいをさらに前進させていこう！

“新たなジョブローテーション”の名のもと、人事権を濫用し、経験や職場を熟知したベテラン社員を次々と異動させている。そのため、現場の人材育成や技術継承にまで波及し、安全をも脅かしている。経験と専門性を意図的に排除し、本人希望や家庭環境の否定と働きがいも奪う“新たなジョブローテーションの”中止・見直し”を求め、全組合員で声をあげよう！さらに、分会は支部と地本とも連携を図り、仲間を置き去りにしない運動を強化していく！

駅は利用者で最初と接する玄関口であり、会社の顔といえる場所だ。しかし、会社は厳しい経営環境を理由とした過度なコストダウンにより、みどりの窓口廃止や改札窓口の無人化、時刻表配布の取り止めなど、社員だけではなく利用者への負担を強いる「顧客軽視」の経営姿勢にひた走っている。さらに、営業統括センター化は、複数の駅や担当に従事する「相互運用」や「多能化」により、専門性を希薄化させ、安全とサービス品質の低下を招くものだ。より職場を熟知し、業務に精通した社員が必要であり、経験や技術を継承するための人材育成が喫緊の課題となっている。現場では、発足に向けて一部社員にしか情報共有されず、不安解消のできない状況が続いている。組合員からは「更なる効率化と何でも屋づくりに『将来的には分社化への道づくり』だと声があがっている。風通しが良く、何でも言い合える職場風土でなければ『安全・健康・ゆとり』をつくり出すことはできない。分会は、誰もが安全で安心して働ける環境づくりと現場からの声を堂々と主張していく！

この間、全組合員でつづらあげた「一掃運動」は着実に根付き、賃金引き上げのたたかいでは「定期昇給の完全実施」を実現させた。そして、夏季手当のたたかいでは決算を読み解き、支払える根拠を現場から堂々と訴え、今後労使で目指すべき方向性を3点確認し、妥結したことは私たちの成果である。現在、資源の高騰や円安による物価の値上がりで、家計への負担は一層重くなっている。今後迎える年末手当や賃金引き上げの要求実現に向け、職場から運動を構築しよう！

11月1日には「赤羽営業統括センター」、来年6月には「田端統括センター」が発足し、田端運転所の仲間とも合流する。労働者の心の拠り所として、すべての仲間寄り思い、安全で安心して働ける職場を創造するために奮闘しよう！そして、全組合員で更なる組織の強化・拡大を共に推し進めよう！  
以上、宣言する。

2022年10月17日  
JR東日本輸送サービス労働組合  
赤羽・田端統括分会 結成総会

## 発言で出された主な問題

- ・今の会社はお客様軽視である！紙ベースの時刻表廃止、窓口閉鎖、特に高齢者に優しくない現実（スマホ・PCに慣れていない）
- ・組合未加入者もが認める、輸送サービス労組を狙ったジョブローテーションだ！
- ・営業施策勉強会に組合加入者は参加出来ない。 等

# 今こそ労働組合の必要性を語り、全組合員で 更なる組織の強化・拡大を共に推し進めよう！！